

阿蘇で第15回自然公園大会開かる

皇太子殿下、美智子妃殿下をお迎えして第15回自然公園大会が去る8月9・10の2日間、阿蘇は草千里を主会場に開かれました。

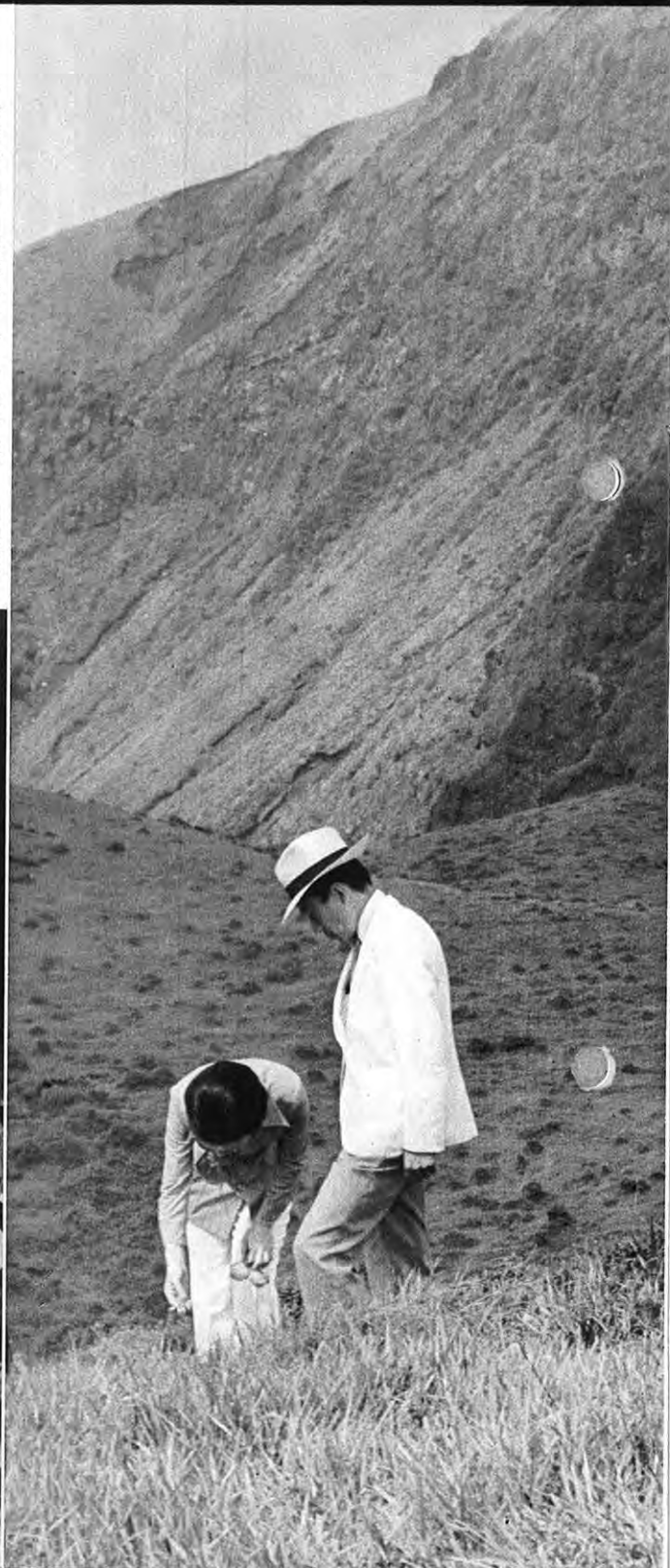
この大会は、自然を愛護し、自然に親しむことを奨励するため、毎年、環境庁、国立公園協会と開催地都道府県が共催して行っています。今年の本県から約3000人の自然保護関係者、ボーイスカウトなどの野外活動グループが集い、阿蘇のみどりの中で、山の夏をおう歌、活発にハイキング、サイクリング、オリエンテーリングなどの野外活動を行ない、高原に英気を養いました。

特に大会初日の9日は、式典のあと、夜は坊中登山道路3合目付近で、営火を囲み、8時すぎ皇太子殿下、美智子妃殿下をお迎えして全員交歓が行なわれました。

▼営火を囲み全員交歓



▶こゆつくり自然探勝される皇太子殿下・同妃殿下



県基本構想に寄せて

相互信頼を再び勝ち取る

木島 安史

熊本県の県民生活と地域開発の調和をめぐり基本構想案が発表されている。私達は、日本人であると同時に熊本の人である。先祖代々熊本に生き、熊本から一歩も外に出たことがない人も、昨日熊本に初めて来てこれから新しい生活を始めるようとする人も、すべて今の時点で熊本の人であり、よかれあしかれ熊本県の動きに影響されながら生きていく。

たくさんの方が集って住んでいる熊本県をよりよいものにするためには、一歩一歩たしかめながら進まねばならず、一人一人が納得し協力しなければならぬ。県の基本構想とはこの為の試金石みたいなものである。

冒頭にのべられているように、現在は、価値の大転換が起こりつつあり、今までのように既成の概念では互に理解しあえない状態になっている。この大きな変化をつぶさに眺めると、次のようなことがわかる。

所得が必要欠かせないものであり、そのために開発を進め、それまでの生活を変えるのもやむをえないと考へ、事実そうした枠の中でみれば良い結果も生れていた。

しかし、現在の問題点は、そうした目標をくつがえすことができないのに、従来の手段は適切ではないことに気がついていることである。すなわち、高所得を得るためにただ工場を誘致するだけでは根本的な解決とはならないことを誰れもが気がついているのである。しかも最も肝心な点は、今手もとにあるこの程度の豊かさを捨てようとする人はみあたらないことである。だから、目標を変えずに新しい手段をさがさねばならない。

地域開発を含めて県政の本質は大きくわけて二つあるように思う。一つは、地域開発という言葉から誰れしも想像する、道路の建設だの港の拡張といった、物に代表される施設を補強し、県民の生活の役に立てることである。いま一つは、老人年金や、貧困世帯の学童に給食費を給付することなどで、無形な援助で

ある。有形な援助にせよ無形な援助にせよ、県民の生活の精神的な支えとなっている場合と物理的、肉体的な支えとなっている場合がある。

私の考へでは、地域開発が現在かかえている問題はこの辺りにあるように思われる。すなわち、物的施設への投資が、とかく産業面のしかも直接生産面に重点がおかれ、県民自身も、道路や港湾は生産手段としてしかみない風潮が強かった。県政を担当する側も例えば公園や運動施設といったものは生産とは何の関連もないものと決めてかかっていたふしがある。

もともと人間の社会は複雑にからみあったものであり、単純ではない。それを要約した形でしか考へなかつたところにあやまちがあつたので現在の窮状に至つたのである。

仮りに立派な住宅が揃い、運動施設や公園が整った地域があつて、しかも工場の排水までも公共団体で処理してくれる所があるとすれば、企業は三洋九洋して立地することを申し出るであらう。そんな鄭重にあつかわなくとも今どき企業誇致などは簡単で、公害工場を追い出すことの方が先決だと大方の人は考へている。

熊本県にとってよいことは、日本の大半の県にとつてもよいことである。熊本県にとつて苦痛の種が他の県でも痛となつていることと同じである。だから良い

企業を迎え、共存共栄するためには、それ相応の準備が必要である。それが先に述べたように、生活に密接に関連した諸施設である。これまでのように、単に道路が良くなったとか、埋立地の工場用地が安いということでは、企業も立地してこない。住民の抗議がこわいからである。

もし公園などが十分に整備されれば、これは企業にとつてもよりもまず第一に、住民にとつても大きな利益である。産業開発のための道路事業が、一人一人の週末のレジャーをのほしたように今度は、一人一人の生活環境を良くすることが、地域と密着した産業の発展をうながすこととなる。これが地域開発の新しいパターンではないだろうか。

県という地域社会が個人の集合体であるように、一民間企業もまたそれによって生活している一人一人の集つたものである。企業をスケープゴートにしたことはやさしいことである。しかしその因果は、やがて一人一人の肩にかかつてくるであらう。

基本構想は、まず理念をかかげて再出発しようとしている。決して楽な道ではないことはわれわれみんなが承知している。だから、ここで求められることは、相互の信頼を再びかちとることであり、他の人の利益を尊重することがやがて我が身に反映することと信じていることであらう。

(熊大工学部助教授)